

【海外経済指標他】～6月利上げは事実上排除された～

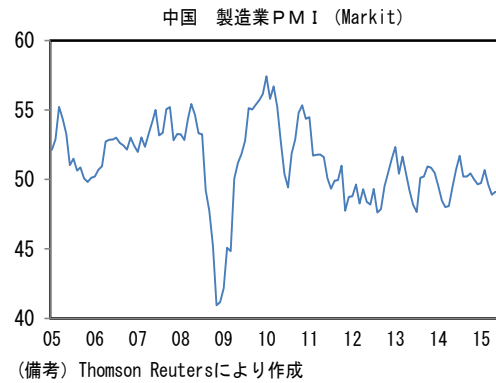
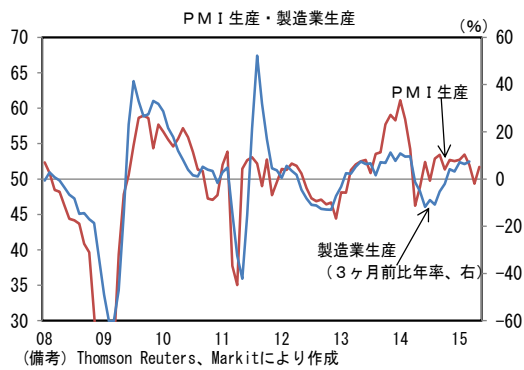
- ・4月FOMC議事録はタカ・ハト入り混じる内容で市場の反応も限られた。議事録では「多くのメンバーが6月利上げの可能性は低いと判断」とし、その理由として「第1四半期の弱さが続く可能性」、「中国経済やギリシャ情勢を懸念」との記載があった。一方で原油価格が反発に転じ、USD高も一服感がみられていることを反映し「ほとんどの参加者は物価上昇率が中長期的には委員会が目標とする2%に達するとの見方を維持している」との記載があったほか、「何人かの参加者は、一部統計によると、最新の月次ベースのインフレ指標はいくらか底堅さを増したことを示している」との指摘もあり、物価には強気な見通しが表示されていた。今回の議事録の収穫は6月利上げの可能性がほぼ消滅したことだ。
- ・MBAモーゲージ申請指数（新規購入）は前週比▲3.7%と2週連続で減少。2月下旬からの著しい伸びが一服した形だが、それでも水準はTapering騒動発生以前と同程度であり、住宅指標（販売・着工）の反発が続くことを示唆している。モーゲージ金利は足元でやや上昇しているものの、住宅購入意欲を削ぐほどのインパクトは持たないだろう。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・前日の米国株は横ばい。FOMC議事録を控え膠着していたが、議事録公表後もトレンドは変わらず。欧州株は独DAXこそ横ばいで引けたが、その他主要国は概ね堅調。
- ・前日のG10通貨はJPYの弱さが目立った。USD/JPYは19日欧州時間からほぼ一本調子で上昇、FOMC議事録公表後はやや上値が重くなったが、121前半まで値を伸ばした。EUR/USDも下落が続き、一時1.11を割れた。
- ・米10年金利は▲4.1bpの2.248%。FOMC議事録を受けて上下したものの、影響は限られた。欧州債市場は総じて軟調。BOEのMPC議事録がややタカ派と受け止められ、ギルト債が下落するとそれに追随。19日のラリーを解消する動きもあり、独10年金利は0.632%（+3.7bp）で引け。GIPS債も軟調だった。

【国内株式市場・経済指標他】～日本のPMI：50回復 生産は再加速へ～

- ・日本株はUSD/JPY上昇を受けて3日続伸で寄り付いた後、もみ合い。
- ・日本の5月製造業PMI (Markit)は50.9と前月(49.9)から反発して50を回復。内訳は生産(49.3→51.7)、新規受注(48.8→51.2)、雇用(50.4→51.1)が改善した一方、最終財在庫(50.5→47.9)は低下。GDP統計で示されていた在庫の積み上がりが解消に向かうのと同時に受注が伸びておりバランスが良い。生産活動が一旦減速した後、再加速する可能性を示唆。
- ・5月中国製造業PMIは49.1と前月(48.9)から僅かに改善。依然として50を下回っているものの、モメンタム悪化には歯止めがかかりつつあるようだ。内訳は、生産(50.0→48.4)が低下した一方、新規受注(48.7→49.3)は改善。輸出受注(50.3→46.8)の大幅低下は懸念材料だが、雇用(47.8→49.0)、中間財投入量を示す購買数量(47.6→49.1)の改善はポジティブ。



【注目点】

- 22日の日銀金融政策決定会合では金融政策の現状維持が決定されよう。2%目標の達成時期が「16年度前半」に後ろ倒しされているため、日銀が緩和を急ぐ理由が見つからない。また、ブルームバーグが実施した調査では7月の人気が高いが、①16年度前半頃までの時間的余裕、②期待インフレ率の安定、③円安・株高の定着を踏まえると、日銀は7月も緩和を見送る可能性が高いと予想される。③については水物ゆえ7月までに環境が激変する可能性もあるが、それはその時になってみないと分からない。機動的に予想を見直すつもりだ。筆者は従前、コア物価のマイナス転化が確実視されるなかで現状維持を貫けば「デフレを放置」したとの評価を下されかねないため、日銀がそれを回避すべく追加緩和に踏み切るというシナリオを描いていた。理由が何であろうと物価が下落すること自体が「デフレマインドの転換が遅延するリスクに繋がる」と指摘した経緯を重視していたからだ。ただし、足元では原油価格が下げ止まり、反転上昇の兆しをみせているため、物価下押し圧力は後退している。また、春闘賃上げ率の拡大、株高など日銀に追い風も吹いている。現状維持が許容されよう。

日銀はいつ追加緩和に踏み切るか？		
36 調査機関		
5月	0.0%	0
6月	2.8%	1
7月	25.0%	9
8月	0.0%	0
9月	0.0%	0
10月7日	0.0%	0
10月30日	30.6%	11
11月	2.8%	1
12月	0.0%	0
1月	8.3%	3
2月	0.0%	0
3月	0.0%	0
2016年4月以降	2.8%	1
追加緩和なし	27.8%	10

調査時期5/11-5/18

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均※	20279.56	83.00
N Y ダウ	18,285.40	-26.99
D A X (独)	11,848.47	-4.86
FTSE100 (英)	7,007.26	12.16
CAC40 (仏)	5,133.30	16.00

<外国為替>※

USD/JPY	121.15	-0.20
EUR/USD	1.1122	0.00

<長期金利>※

日本	0.405 %	0.009 %
米国	2.248 %	-0.041 %
英国	1.978 %	0.031 %
ドイツ	0.632 %	0.037 %
フランス	0.916 %	0.045 %
イタリア	1.864 %	0.057 %
スペイン	1.803 %	0.052 %

<商品>

N Y 原油	58.98 ^{ドル}	1.72 ^{ドル}
N Y 金	1208.70 ^{ドル}	2.00 ^{ドル}

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg

